



A-PLAT

気候変動適応情報プラットフォーム
CLIMATE CHANGE ADAPTATION INFORMATION PLATFORM

資料 2

令和 5 年度「気候変動適応の研究会」の活動報告 および今後の活動方針

2024年3月18日

国立環境研究所 気候変動適応センター



気候変動適応の研究会のあゆみ（R2～R5年度）

年度	内容	参加者	形式
令和2	国研21機関による気候変動適応に係る最新の研究・取組動向の発表	国研21機関	オンライン
令和3	・国研21機関による最新の研究・取組動向の発表 ・アンケート結果や意見交換会を踏まえた、6テーマでのWG設立についての議論	国研21機関 LCCAC10機関程度	オンライン
令和4	・国研21機関による最新の研究・取組動向の発表 ・テーマごと（6分科会）に参加者間での情報交換や連携の可能性等の議論を実施	国研21機関 自治体・LCCAC20機関程度	現地開催（つくば） とオンラインのハイブリッド
令和5	・国研21機関による最新の研究・取組動向の発表 ・テーマごと（6分科会）に参加者間での情報交換や連携の可能性等の議論を実施	国研21機関 自治体・LCCAC30機関程度	現地開催（東京）



気候変動適応に関する研究機関連絡会議に報告

令和5年7月10日 実務者会合（オンライン）

- 令和5年度の研究会の活動方法・運営方法等に関する意見交換を実施
- 令和5年度シンポジウム・分科会の開催方法についての開催方法を合意

令和5年12月21日 シンポジウム・分科会（@秋葉原UDX CONFERENCE）

- 各構成機関による最新の研究動向やトピックに関する解説を実施。
- テーマごとに参加者間での情報交換や連携の可能性等の議論を実施。
 - 事後アンケートにて参加者より今後の運営に関するご意見等を聴取

地域での気候変動適応の実践（いわゆる社会実装）を念頭に置いた、

国研と地域気候変動適応センター（LCCAC）の対話・共創・交流

- 地域の現場における課題感の共有と解決に向けた意見交換
- 最新の科学的知見の活用に向けた情報交換
- 両者のニーズ・シーズのマッチングによる新たな協働の模索

国研どうしの対話・共創・交流

- 各機関の取組を共有し、あらゆる形での連携や協働の可能性を模索
(将来的な可能性：共同研究の立ち上げ、外部競争的研究費の獲得)

令和5年度 シンポジウム・分科会の開催概要

日時 : 令和5年12月21日(木) 10:00~17:00

開催形式 : 対面 (秋葉原UDX CONFERENCE)

参加者 : 計110名程度 (研究機関、地方公共団体、LCCAC、関係省庁、大学関係者等)

プログラム概要 :

10:00-10:15	開会 (挨拶、趣旨説明)
10:20-12:10	シンポジウム : 研究機関による最新の研究成果・トピック等の解説 (3会場、計15講演)
12:10-13:40	休憩
13:40-14:40	分科会 : テーマごとの情報交換・意見交換 (4会場)
14:40-14:55	休憩
14:55-15:55	合同分科会①⑤ : 気候データ・シナリオについて
15:50-16:05	休憩
16:00-16:55	総会 : 6分科会からの報告およびWGの活動結果報告
16:50-17:00	閉会 (挨拶)
17:30-	交流会 (別会場)



シンポジウム開催概要

各構成機関による最新の研究動向やトピックに関する解説を実施（発表15分、質疑5分）

A会場	B会場	C会場
黒潮大蛇行と漁況との関係 瀬藤聡（水産研究・教育機構）	気候変動適応型作物の 創出技術の開発および活用 戸高大輔（理化学研究所）	気候変動と衛生害虫、 その適応策 駒形修（国立感染症研究所）
海洋研究開発機構における 気候変動に関連した最近の取り組み 石川洋一（海洋研究開発機構）	農業分野の影響評価および 適応に関する最近の研究動向 長谷川利拡 （農業・食品産業技術総合研究機構）	水道における気候変動対策 小坂浩司（国立保健医療科学院）
Climpactで捉える 日本各地の極端気候指標とその変化 村崎万代（気象庁気象研究所）	森林・林業分野における 気候変動影響と適応策 中尾勝洋（森林研究・整備機構）	研究機関連携を通じた 暑熱健康に関する研究 岡和孝（国立環境研究所）
人工衛星による地球環境観測 ー気候変動適応への貢献の観点から 沖理子（宇宙航空研究開発機構）	気候変動と生物多様性・生態系の 変化がもたらす災害リスクに関する研究 遊佐暁（防災科学技術研究所）	神戸市における 暑熱対策のための領域気候 ダウンスケーリング研究の紹介 足立幸穂（理化学研究所）
気候変動適応に関連する NICTの取組 佐藤知紘（情報通信研究機構）	気候変動に向けた「流域内の 洪水危険度見える化」の取り組み 吉田邦伸（国土技術政策総合研究所）	歩行者の暑熱環境緩和のための 街路デザイン PARK Chaeyeon （産業技術総合研究所）

* 講演資料など（研究会A-PLAT特設ページ）

<https://adaptation-platform.nies.go.jp/archive/conference/2023/1221/index.html>

分科会の開催概要

テーマごとに参加者間での情報交換や連携の可能性等の
議論を実施（60分） | 6

分科会	幹事機関 ／参加国研・LCCAC等 数	令和5年度の活動内容
合同分科会①⑤ 気候データ・シナリオ	理研・気象研 ／ほぼ全ての出席者	<ul style="list-style-type: none"> 分科会1 / 分科会5の合同開催に向けた議論 気候予測⇔影響評価⇔データ利用者間での情報伝達に係るさまざまな取組事例についての整理と共有
分科会② 農業	農研機構 ／6機関・8LCCAC程度	<ul style="list-style-type: none"> 国研の研究調査および自治体の適応技術等の事例紹介 参加者間での情報共有および意見交換
分科会③ NbSと気候変動適応	国環研 ／11機関・12LCCAC程度	<ul style="list-style-type: none"> 適応に資する「自然の機能の活用」に関する研究動向等の紹介 今後の連携・活動方針に関する意見交換 <ul style="list-style-type: none"> ▶ 「気候変動適応に寄与する自然の活用事例集（仮称）」等の作成に向けたメンバー募集開始
分科会④ 海	JAMSTEC ／6機関・5LCCAC程度	<ul style="list-style-type: none"> 過去2年間の議論の振り返り 物理予測、生態系、漁業等の多様な分野・専門間での交流の意義についての議論
分科会⑥ 暑熱・健康・都市	産総研 ／11機関・23LCCAC程度	<ul style="list-style-type: none"> 暑熱、健康、都市に関する研究プロジェクトおよび地域におけるニーズ・疑問などについての事例紹介 ポスターセッション形式での自由討議によるコミュニケーション

* 分科会はクローズドで実施中（資料公開なし）

分科会の構成・実施体制案（令和6年度～）

- 現行の6分科会→4分科会に統合
- 各分科会に座長（複数名可）をおき、事務局は国環研が担当する。
- 活動期間：2年間

※敬称略

分科会①気候データ・シナリオ 座長：足立（理研）・仲江川（気象研）

分科会②農林水産業 座長：長谷川（農研機構）

分科会③NbSと気候変動適応 座長：西廣（国環研）

分科会④暑熱・健康・都市 座長：高根（産総研）

想定される分科会の実施スタイルの例

- a. 情報交換型（話題提供および参加者どうしでの自由な意見交換）
- b. 課題解決型（課題を設定し、主に分科会内で議論と調査を行い、解決策を提言することなどを模索）
- c. 共同研究型（取り組むべき課題を研究計画に収れんさせ、外部競争的資金の獲得や共同事業への発展などを模索）